

令和5年度 山添村立奈良県立山辺高等学校山添分校 学校評価総括表

		【高等学校用】
年度	令和5年度(中期計画2年目)	
本校の使命(スクール・ミッション)	農業科は山添村の気候風土に即した農業、家政科は村の産業であったホームスパン(羊毛手織りの技法)を授業に取り入れ、少人数教育の良さを生かし、徳・体・知の調和がとれ、地域社会で活躍できる人材を育成します。	
年度重点目標	1 主体的な学びによる基礎学力の充実と専門的な能力の向上 2 豊かな心と自主的・自立的な態度の育成および進路意識の向上による進路の実現 3 保護者や地域と連携した安心・安全な開かれた学校づくり	

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	本校では、入学者選抜を経て、次のような生徒を受け入れます。 1 本校の使命や教育方針を理解する生徒 2 自己の能力を磨き、創造性を発揮できる生徒 3 人や自然を愛する豊かな心をもった生徒 4 人間尊重の精神をもち、社会貢献の意識が高い生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	本校では、農業科や家政科の特性を生かし、チャレンジ精神に満ち、どんな困難にもくじけず、正々堂々と生きる人間を「ゆっくり、じゅくり、たっぶり」育てる教育目標として、その実現のために次の教育を行います。 1 生徒一人一人の興味や関心に応じた科目選択ができるカリキュラムを編成します。 2 発達段階に応じて分かる授業を目指し、基礎的、基本的指導及び必要な支援を行い、個に応じた教育の充実を図ります。 3 社会で自立して生きていく力を身につけられるよう、キャリア教育の充実を図ります。 4 基本的な生活習慣や人間としてもつべき規範意識を身につけ、主体的に判断して行動できる力を育てます。 5 部活動はじめ、すべての生徒の活動を活性化し、ルール・マナーの習得、自主性の育成、リーダースhipの育成、達成感による自己実現や自尊感情の醸成を図ります。 6 健康で活気のある生活を目指し、望ましい食習慣を身につけ、自己管理能力を育て、さらに生涯にわたって健やかな生活を送るための体力を育成します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	本校では、次の資質や能力を身に付け、74単位以上の単位数を習得した生徒に卒業を認定します。 1 深い思考と豊かな創造力を基盤に、社会に貢献しようとするができる。 2 自己の能力を磨き、卒業後も学び続けることができる。 3 異文化や異領域への共感と理解を深め、自己の見解を論理的に主張することにより、社会で活躍できる。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	健康的な生活習慣の向上	保健授業や「ほけんだより」による知識の向上と啓発	朝食摂取率90%以上	毎日食べると答えたのが40%で、週4~6日食べると答えたのが15%、週1~3日答えたのが36%、食べないが9%であった。	1週間の内に朝食の欠食をしてしまっている生徒もいるので、毎日の朝食摂取率をもっと高めたい。	・朝食を食べない生徒が9%、週1~3回の生徒が36%と多いのが気になる。個別面談による指導が必要ではないか。 ・毎朝、朝食摂取が当然の生活だと思わせてほしい。 ・令和元年度の農水省朝食摂取調査では、若い世代の摂取率は約70%で、「ほとんど食べない」は21.0%、「ほとんど毎日食べる」は男性58.0%、女性69.2%であるので、それを目標にしてほしい。 ・ほぼ朝食をとる生徒が60%で、これからも食事の重要性をしっかりと啓発する。	・就寝時間との関係を探るなど、朝食を食べない原因を考える。 ・健康、意欲、気分増進のための研修を実施する。 ・朝食の摂取は家族と一緒に考えることが重要である。例えば、朝早く起きること、朝の食欲があること、家族とともに朝食を食べる習慣、朝食の準備に手間がかからないこと、朝食は家族が準備、自分が準備等。
	体力の向上	部活動の活性化と体力向上に根ざした体育授業の実施	スポーツテストの結果が前年度より向上した生徒が75%以上	女子の握力などは前年度に比べて大きく向上しているが、その他の多くの部分では前年度と同じ、もしくは後退している。	体育の授業だけでなく、放課後の時間などを有効に使い、運動の楽しさややりがいを感じることができるよう体験が必要であると感じた。	・体育の授業での準備運動の改善。 ・マラソン大会等の事前及び事後指導の充実。 ・体力面、精神面の強化を望みます。 ・スポーツによる体力の向上が重要でスポーツテストなどでは成果が出ているが、体育の授業では成果が出ていない。 ・今後も部活や体育などで体力の向上に努めてほしい。	・部活動への加入率を上げていく。 ・運動、体育面の活動を活発にさせるための意欲を増進させる強い指導を行う。 ・部活動、家庭での運動、特に家庭での食事がおろそかにならないように取り組む。 ・体力の向上に欠かせないウォーキングが重要で、日常生活の中で歩数計の活用などで自分から積極的にウォーキングに取り組む。
	健康への意識の向上	保健授業や「ほけんだより」による知識の向上と啓発	生活習慣についてのアンケート調査前年度比3%向上	前年度と比べると、寝付けない、朝食を全く食べない、理由もなくイライラするなどの項目が3%以上減少しており、10項目中5項目で改善が見られた。	だるさや疲れを感じるという項目が12%増加しているため、休養に関する部分で指導が必要である。	・学校の指導は良好だと思います。 ・啓発活動を行い、機会あるごとに運動、食事、睡眠の3つの重要性についての指導により健康への意識の向上などに効果が表れてきている。寝付けない、朝食を全く食べない、理由もなくイライラするが減少していることは大きな成果と思われる。目標は「健康への意識の向上」のことから、更なる検討が必要である。	・休養(就寝時刻)の大切さを伝える活動を行っていく。 ・正しい生活習慣の遵守に向けた指導の強化を行う。 ・早く起き、日々朝食をとり余裕をもった生活を大切に。 ・体力がつけば勉強にも集中でき、日々の生活も楽しく過ごせる。それには過度な運動をさせる機会をつくる。 ・無理をせず、適度な運動を自分の体力に合わせて計画的に毎日コツコツとさせる。 ・体力向上には適切な栄養と適度な運動が大切で無理のないペースで継続する。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	授業改善	新学習指導要領に対応した授業改善	生徒の授業満足度の平均75%以上	学習指導に関係するアンケートで80%の満足度であった。	授業には満足しているが、それが資格取得に繋がっていないため、資格取得を授業の中に組み込んでいきたい。	・電子黒板がないことによる不利益を教科ごとに列挙して、村教委に必要性を訴えるべき。 ・授業の中に取り組んでほしいと思います。 ・文科省の授業への意識の向上調査で、「楽しいと思える授業」が58.2%、「学校の勉強は将来役に立つと思う」は84.7%が「そう思う。」と答えた。分校の目標値75%以上に対して、80%が満足していると回答しているが、資格取得に繋がっていない面がある。 ・資格を取りたい70%以上、取ることができた45%、資格の重要性を知ってもらおう。	4年間で取得できる資格、その資格があればどのような進路があるかを生徒にイメージさせる。 ・資格取得は、将来の就職を有利にするための指導の強化を行う。 ・電子黒板やインターネットの活用など、一層授業の改善に取り組んでいく。
	学習意欲の向上	定期的な授業研究による授業力向上	学習意欲に関する項目75%以上	生徒は80%、実習に関しては93%、意欲が高まったとあったが、教員側は72%であり、ギャップがある。	図書館の利用や家庭学習について低い数値であり、自ら学ぶ意欲を高めるための方策を考える必要がある。	・教員のニーズにあった研修について確認する。 ・生徒の意欲が高いということは、良いことです。 ・目標値75%以上に対して生徒の感想としては80%以上であり、目標は達成している。教員との間にギャップがあることから更なる意欲が期待できる。 ・先生の図書館を利用させるアンケート結果が低い。	・図書館については、生徒の要望アンケートをとり、新刊紹介等、生徒が足を運ぶ環境づくりを推進していく。 ・更なる生徒の意欲の向上について取り組む。 ・進路を中心とした教育の中で、身に付けた学力を活かし自分のやりたい仕事ができ、正社員として働ける教育を目指す取組を行う。 ・生徒の学習意欲の向上が地域社会や企業をはじめとする関係機関との連携を生むことができる。
	オンライン教育への対応	ICTの活用を含めた教員の能力向上	教員の情報活用能力75%向上	研修等には参加をしているものの、実際の授業へと繋がっていない。全教員の30%は電子黒板等を活用され始めた。	ICTに関して、苦手な先生方もあり、適切な研修の実施が必要である。機材の問題もあるため研修が難しい問題もある。	・ICTの活用について教員間で差がある。 ・更なる研修をお願いします。 ・教員の情報活用能力75%以上を目標として積極的に研修に参加して、実際の授業へと繋げてほしい。	・教科等研究会への参加により、最先端の活用方法及び他校の教員からの学び(横のつながり)ができる。 ・更なるICTの活用を考察する。 ・文科省の調査では、2023年3月時点で、高等学校での教育用PCの1台あたりの生徒数は1人であり、万遍なく行き届いている。また、指導用デジタル教科書の整備率は47.1%、学習用デジタル教科書整備率は10.2%と低い状況である。これらを参考に今後の授業改善を図ることが重要である。

3.働く意欲と働く力をはぐくむ	第4学年での課題研究(インターンシップ)における出席率の向上	進路指導部・学年と事業所との連携による、本人に対する継続的な動機づけの実施	課題研究(インターンシップ)出席率95%以上	課題研究の出席率は98.4%と高く10人中6人は皆出席であり、一生懸命実習に取り組んだ姿勢が窺えた。	作業に取り組む態度や受け答えの仕方など指摘を受けることもあったが、その態度、連携しながら改善を回ることができた。	・現在の生徒の姿勢は、たいへん良いと思います。 ・課題研究への出席率95%以上を目標とし現状は98.4%と高く、10人中6人は皆出席である。進路指導と事業所との連携によること・ホームルームの時間を活用し、体調管理や時間管理の大切さを指導している成果である。	・生徒の心、姿勢を今後とも大切に。 ・作業に取り組む態度が重要であり、また基本でもあり、これはそれぞれの事業所でないと分からないことがたくさんある。それぞれの経験、体験したことを卒業後の進路に活かせるようにする。
	山添村企業説明会参加事業所の拡充	就職や課題研究受入可能な事業所の新規開拓及び企業説明会への参加	新規事業所4社以上	新規課題研究受入事業所5社、就労支援事業所3社と多くの企業に協力いただいた。新規就職内定企業は5社。	課題研究は長期間の受入であるため断られることもあるが、実社会を体験した生徒には生きる力が多少なりとも付いたと感じる。更に新規開拓を増やしたい。	・課題研究先を見つめる取組をサンライズ講座の講師依頼と共に行っている。新規課題研究受入事業所5社、就労支援事業所3社と協力いただき新規就職内定企業は5社と成果が出ている。 ・商工会の協力もあり、生徒も良い体験になっているのでは。	・山添村内企業の説明会参加回数と就労に繋がった例をリスト化、データ化していく。 ・課題研究は、実社会を体験した生徒には企業の現状を知り、卒業後の頑張りが見込める。更に上をめざしたインターンシップを検討すること。
	キャリア教育(労働意欲の向上とマナー習得)の推進	外部講師の開拓と講演会の実施時期	外部講師による講演会の年度2回の開催	山添村の企業を知ろうの開催や年5回のサンライズ講座等を開講し、職業選択の機会を多く実施できた。	様々な仕事に従事されている方の話を聞き、実際に体験することで働くことの意義を身近に示すことができた。	・外部講師による講演会を2回と外部講師によるサンライズ講座を5回、ハローワークより「就職マナー講習会」等により労働意欲を高めている。	・キャリア教育で学んだことを振り返り、自分の特性に気付くため、ポートフォリオ形式で記録を保管していく。 ・地域の企業との交流により、職業選択の機会を多く実施できている。様々な仕事に従事されている方の話を聞き、実際に仕事やマナーを体験しており将来の仕事の力になっている。埋もれているものを掘り起こし新しいものを発見する取組を行う。
4.地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	幅広い委員の選択と分析方法の研究	学校運営協議会の年度3回の開催	年度3回の開催することができた。	保護者や地域住民の協力を得て、活発な会議ができた。	・今年度は、地域住民の協議会への欠席が多いような気がするのと、人数を増やす。 ・今年度は、昨年より活発さを感じます。 ・幅広い分野の会員より多くの意見が反映している。 ・活発な意見も出て良い会議になったと思う。	・学校が抱える課題を共有し、意見を求める(熟議)の時間を多くとる。 ・保護者や地域住民の協力を得て、年3回の協議会を開催し活発な会議ができています。1、2名の一般の方の参加者を追加する。
	通学路清掃(グリーン活動)の自主的な参加	通学路清掃を月1回実施し、全校生徒に向けて参加を働きかける。	自主的に参加する生徒が全生徒の7%以上	毎回ではないが、目標の有志者数を超える回もあり、年間を通して目標値に対して80%、積極的に清掃活動に取り組めた。	高学年の前向きに取り組む姿勢が低学年にも波及し、参加生徒の中に少しでもきれいにしてもらう気持ちが醸成されてきた。	・グリーン活動に参加する生徒が全体の1割は少ない気がする。 ・以前より活発さを感じます。 ・高学年の前向きに取り組む姿勢が低学年にも波及し、参加生徒も少くもきれいにしてもらう気持ちが醸成された。 ・これからも続けてほしい。	・学校が発案するのではなく、生徒会等が計画を立てて参加者を呼びかける等の方向転換を行う。 ・日々自分が通学路を考え、参加者が増えるように進める。
	地域と連携した交通安全等の催しの実施	生徒会活動の充実としてとらえて実施	生徒会が主となって年度2回の開催	秋の運動では通学手段を考慮し、原付通学生徒が主となってマスコットを配布したが、今年度は1回のみで留まった。	単なる交通安全のイベントではなく、地域住民に対する感謝の気持ちを表す良い機会となっている。	・安全を呼びかけるマスコットの配布は分校の存在を地域住民に気付かせる良い機会となっている。 ・良い取組になってきている。	・現状がさらに充実するように企画する。 ・単なる交通安全のイベントではなく、地域住民に対する感謝の気持ちを表す良い機会となっている。 ・生徒会、農業クラブ、家庭クラブとともに地域との繋がりを増やす。
5.地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育学習資料の活用	「なかまとともに」を活用したLHRの実施	「なかまとともに」を活用したLHRの実施	各学年「なかまとともに」を活用したLHRを2回実施した。また、人権作文や人権動画などを資料としてLHRを実施した。	年間計画に組み入れ、実施することによって人権教育を従事させる。	・ホームルームでの人権教育や人権作文、人権動画などの資料を活用して学習を活動に行っている。人権教育の充実に向けた資料の精選と年間計画に組み入れ、実施することによって人権教育を充実させる。	・現状がさらに充実するように企画する。 ・山添村人権擁護委員さんとともに人権教育の研修会などで充実を図る。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進(卒業までのいじめ全件追跡、いじめを発見した場合適切に介入する)	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進(卒業までのいじめ全件追跡、いじめを発見した場合適切に介入すると答えた生徒の割合70%以上)	いじめを発見した場合、適切に介入すると答えた生徒の割合は65%であった。	目標達成70%に及ばなかった。いじめを発見した場合の対処の仕方を啓発していきたい。	・いじめを発言した場合の介入割合が65%と低い、少人数での固定化された人間関係が原因なのか、その理由を確認しておくべき。 ・卒業までの「いじめ」の全件調査や「いじめ」を発見した場合、適切に介入し、学校のいじめの防止に取り組む。いじめを発見した場合、適切に介入すると答えた生徒の割合は70%以上の目標であったが、実際は65%であった。	・対応方法を疑似体験させるなどの授業を行う。 ・生徒の意欲を90%位に高めてほしいと思います。 ・実際にあり得る状況を設定し、生徒自らがどのように対応をするべきなのかについて考える機会を設け、学習することが重要である。いじめを発見した場合の対処方法など山添村人権擁護委員さんに相談し対応を図る。
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の実効性ある活用	学期ごとに対象となる生徒の状況を組織的に確認	学期ごとに対象となる生徒の状況を組織的に確認	学期末の会議で情報共有できた。	職員全体で支援生の把握ができた。	・たいへん良いと思います。 ・学期ごとに対象の状況を組織的に確認。円滑な生徒の情報交換のためにデータベースを日々更新し、活用できるようにしているのが良かった。	・現状がさらに充実するように企画する。 ・職員全体で支援生徒の把握ができたことから、これをベースにさらにチャレンジする。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

①「本校に入学してよかったと感じている」にあてはまる生徒は31%(昨年度28%)、どちらかというあてはまる生徒も含め72%(昨年度63%)であった。「本校に入学させてよかったと感じている」にあてはまる保護者は70%(昨年度61%)、どちらといえばあてはまる保護者も含め本年度も100%であった。
②「インターンシップの充実」について、第4学年は、4月中旬から翌年1月中旬までの月曜日、火曜日、水曜日に約70日間、「課題研究」として、インターンシップを実施している。この様子をまとめ、課題研究中間発表会及び課題研究終了後に課題研究発表会を第1、2、3学年の前で発表している。
第1、2、3学年は奈良県及び奈良県教育委員会主催のインターンシップへの参加を働きかけている。
③「学校における働き方改革の推進」については、教職員の勤務時間終了までに会議や生徒の活動が終了するように計画した。なお、生徒は登下校のバスの都合があるので、活動時間に制約がある。
④「個別の指導計画」、「個別の支援計画」を作成している。また、学期末に特別支援教育コーディネーター、カウンセラーと共に教員で共有している。今後、専門性を高める研修を計画している。
【全体】横断幕にある「夢をつかもう」をモットーに、「サンライズ講座」や「山添村の企業を知ろう」等からたくさんのお出合いがあり、自己の夢を見つける。地域に開かれた学校をめざし、野菜苗及び野菜販売を計画的に行う。また、「片平あかね」、「まめくら大豆」、「黒枝豆」など、研究の一端として栽培を行い、農業クラブや文化祭等で発表する。山添村教育委員会とともにオーガニックスクールを開講し、生徒の知識や技術の向上に努め、自己の夢をつかむように粘り強く頑張る経験をさせていきたい。